

品川区行政評価委員会 評価結果および主な意見

審議日 平成 23 年 7 月 31 日(日)

	1	対象事業名	結婚サポート事業
総合評価 (実施の方向性)	C (見直し)	事業の目的や実施手法を十分に検証し、工夫を図ること。	
委員の 主な意見	<p>切り口として区がサポートをするのは1つのやり方だと思うが、2回、3回と会える場や年齢的な区分を設ける必要があるのではないかな。</p> <p>区が行うかどうかは一つの課題としても、出会いの場を設けていくことは今後とも必要である。</p> <p>高い区民要望に応えるとともに、若者の生活実態や参加者の要望を汲み取り、改善していく必要がある。</p> <p>出会いの機会の提供としては一定の成果があったと思うが、未婚化・晩婚化に歯止めをかけるのは難しいことではないかな。</p> <p>区の事業のため区内在住・在勤という縛りは分かるが、システム的に無理があり、違うかたちにする必要がある。</p> <p>コミュニティの崩壊が根底にあり、効率的かどうかという捉え方ではなく、コミュニティを色々な意味で活用していくという観点で考えることも必要ではないかな。</p> <p>1回会って結婚ということはそうはなく、それに対して税金を投入していく中では趣旨と結果と求めるものがずれてきているのではないかな。</p> <p>委託事業者の利益誘導に繋がっていないか危惧している。また人口が微増している中で区が行うべき事業ではない。</p> <p>現在の品川区の財政構造に即座に影響するものでもなく、区民ニーズも高いため、当分は実施手法を模索していくのが良いのではないかな。</p> <p>直接効果としては難しいが、話題提供、きっかけ作りという点で、間接効果は多く見込めるため、今後は目的と方法の見直しを図ったうえで継続していくのが望ましい。</p>		

品川区行政評価委員会 評価結果および主な意見

審議日 平成 23 年 7 月 31 日 (日)

	2	対象事業名	図書館の運営
総合評価 (実施の方向性)	B (継続)		運営にかかるコストを十分に意識したうえで、より良いサービスの提供を目指し、さらに一層の工夫に努めること。
委員の主な意見	<p>費用をかけてでも全館に司書を置くなどして、価値のつくような運営に変更していく必要がある。</p> <p>委託の拡大や指定管理者制度はやめ、全ての図書館で司書資格を持った正規職員の配置を進めるべきである。</p> <p>専門家を揃えれば良いのではなく、区全体の効率が上がるよう進めていく必要がある。</p> <p>ニーズの高いサービスは拡充すべきだが、運営の人的な面で見直しが必要である。</p> <p>区民サービスの充実としては見直しや拡充も必要であるが、コスト面では税金の有効活用ということからも、様々な検討による見直しが必要である。</p> <p>運営については、職員か委託業者かではなく中身の問題であり、事業と人件費が見合うかたちというものを判断しなければ、指定管理者制度を安易にとるべきではない。</p> <p>区民サービスの話だけでなく、区民としての意識(マナー)を高めるための取り組みも広げていく必要がある。</p> <p>障害者サービスといった部分の拡充も必要である。</p> <p>重要度が高い事業であるからこそ、予算的に立ち行かなくならないよう、新しい考え方も取り入れつつ、財政的な視点を持った運営が必要である。</p>		

品川区行政評価委員会 評価結果および主な意見

審議日 平成 23 年 7 月 31 日 (日)

	3	対象事業名	高齢者の生きがづくり事業
総合評価 (実施の方向性)	B (継続)	高齢者の生きがづくりは区が行う同種の事業全体と調整・連携して進めること。また個々の事業の実施にあたっては、自主性を促すとともに、対象や内容を十分に検証すること。	
委員の 主な 意見	<p>ニーズに合っていないものは見直す一方、潜在的なニーズも把握すべきである。また自主的な活動を支援するなど、区が関わるべきものについて考える必要がある。</p> <p>参加に結びついていない高齢者への働きかけも区の役割である。また日常活動への支援など、参加者の要望を取り入れてもらいたい。</p> <p>事業全般の方向性としては拡充だが、6万人の高齢者への広がりを考えれば、自主事業の支援にも目を向けた展開が必要である。</p> <p>個々の事業として何をやるべきかということに関しては見直しが必要である。</p> <p>シルバーセンターを上手く利用して色々な事業を実施できるのではないか。</p> <p>パソコンに関する要望も多くなっており、今後はネット上のコミュニティのような点についても検討する必要がある。</p> <p>このような事業は評価に馴染まないのではないか。</p> <p>高齢者のいきがい事業に対し、区としての全体像をしっかりと持ったうえで進めていく必要がある。</p> <p>機会や場を与えるという「消費」という考えではなく、今後は高齢者の自主性を促す方向転換や働くといった「生産」という視点を取り入れ、見直していくべきである。</p>		

品川区行政評価委員会 評価結果および主な意見

審議日 平成 23 年 7 月 31 日 (日)

	4	対象事業名	地域における健康づくり事業
総合評価 (実施の方向性)	C (見直し)		より多くの区民が参加できる仕組みとなるよう、事業の対象や内容とともに、実施の組織のあり方を十分見直すこと。
委員の 主な 意見	<p>健康づくりは全世代に関わるため、幅広い区民が参加できるよう取り組んでいく必要がある。</p> <p>どのようなかたちが区民が実感できる健康づくりなのかを整理し、それに合わせた事業に見直していく必要がある。</p> <p>多くの課題もあるが、事業を継続していく一方、日々変化する状況の中で、新しいものを取り入れたり、改善を進めていく必要がある。</p> <p>当事者からの意見を踏まえて、区が行うべき支援とは何かを検討し、事業を進めていく必要がある。</p> <p>実質的に区民が行動して健康増進につながるシステムの構築など、担当所管も含めた総合的な見直しが必要である。</p> <p>所管の組み替えも含め、類似事業の整理について検討が必要である。</p> <p>健康は重要であり、同じ事業部の中で仕事を整理していく必要がある。</p> <p>推進委員は他の職と重複している方もおり、健康に意識が高い人材を町会などに取り入れられる仕組みが必要である。また、健康は認証されて取り組むものではなく、認証制度は廃止した方が良い。</p> <p>健康づくり推進委員には高齢の方も多く、見直す必要がある。</p> <p>認証制度は違うかたちに見直す必要がある。</p> <p>実践につながる根拠のあるデータを元に事業を整理するとともに、対象や目的など発展的な見直しを図る必要がある。</p>		